

# 美術授業に カメラ

APA社団法人 日本広告写真家協会  
出版情報事業部  
『美術授業にカメラ』の実践記録です。  
企画編集／鈴木英雄



## 『100の神様』 第2学年2学級44名

平成20年6月18日  
西東京市立田無第一中学校  
濱脇みどり教諭の授業

今回の造形作品は「自分の神様」を制作し、居場所まで考えて撮影に挑んだ。神様の居場所を撮る思春期真っただ中の中学2年生。そんな自分を支え、励ます何らかの概念や性質を想定する。勇気、優しさ、粘り強さ…。それ



濱脇みどり教諭  
写真／城ノ下俊治

を目鼻のある具体的な像の形（＝神様）に表す。石の粉でできた粘土は雲囲気は悪くないのだがもろく、壊れてしまうことが少なくなかったこの題材を締めくくる活動として、それぞれの神様をふさわしい場所に安置し、写真を撮らせてみようと考えた。

ほとんどの生徒が初めてのデジタル一眼レフカメラである。神様に焦点を合わせると周りはいい感じにぼける。前傾をぼかしたり背景をぼかしたり。奥行きのある画面も、広がりのある画面も、モニターで確認しながら作っていくことができる。一年以上生活している学校である。一人一人にお気に入り、思い入れのある場所はある。またそれぞれの神様のキャラクターに合わせて、ここなら、と思いついた場所もあるだろう。ひっそりたたく、どっしり構える、静かに見守る。場の雲囲気を生かして、様々なたたずまいの神様の姿が画面に納められた。

子ども達の写真からは「神様」の視線で風景を捉えた一人一人の気分が強く現れているように思う。ただお気に入りの風景を撮る、というのではない。がんばって作った自作の記録、だけではない。その二つが出会うことによって、それぞれの単独では起こりえない物語のようなものが、そこに生まれている。